

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		11/25~12/2	12/2~12/9	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.022	0.024
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.041
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.016	0.015
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.014	0.020
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.021	0.030
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.015	0.026
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)		
		11/25~12/2	12/2~12/9	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	0.017
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

市内の大気浮遊じん中のセシウム137濃度は、平均値が0.01mBq/m³と極めて低い濃度であり、この濃度の放射性物質から発せられる放射線は、自然放射線量の日々変動の範囲であり、浮遊じん放射線の健康影響について心配はいりません。

一方、新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態に日々の心配の種が絶えません。私達は、10年前の原発事故の経験から、緊急事態下では科学的・論理的に理解し、自分の身を守る行動が大切だと学んではずです。

私が原発事故直後から続けている小・中学校の「放射線セミナー」では、子どもたちは原子力や放射線のことをあまり教えられていない気がします。私たちは、自分の経験を次の世代に伝えるために「何をすべきか」を改めて考えなければなりません。